

第5章 アンケート・ヒアリング調査および住民意見交換会の結果

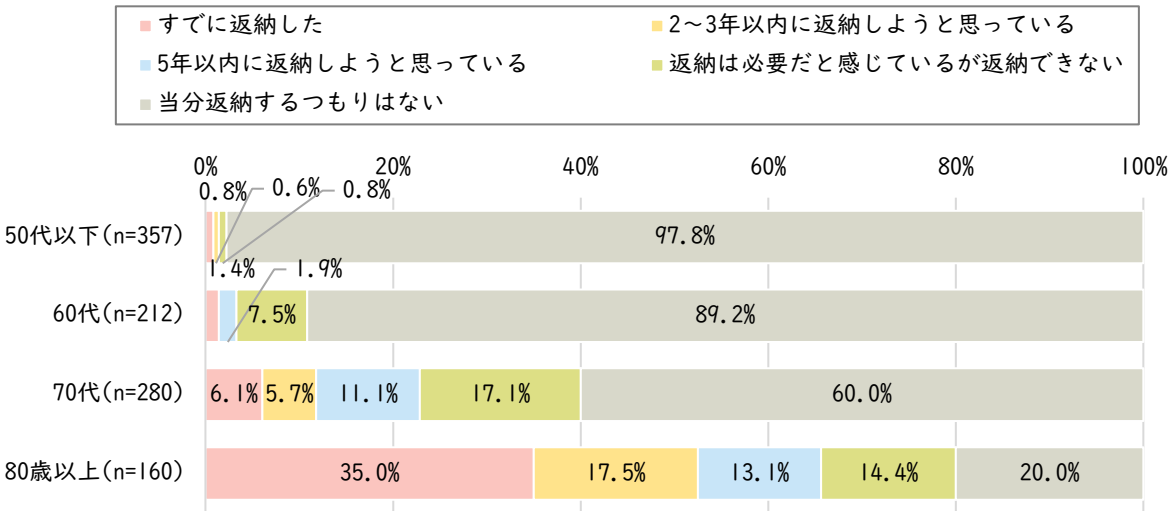
1. 町民アンケート

(1) 調査概要

調査対象	田布施町民(無作為抽出)3,000部／馬島にお住まいの方(全16世帯) ※ただし、行政区単位で均等配分
調査期間	令和5年8月
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収、web回答
回収結果	回収率： 39.9% (回収 1,202部/配布 3,016部) ※うち、馬島以外にお住まいの方 39.9% (回収 1,197部/配布 3,000部) 馬島にお住まいの方 31.3% (回収 5部/配布 16部)

(2) 免許返納意向

- 「返納は必要だと感じているが返納できない」と回答している70代・80歳以上が15%前後いる一方で、「当分返納するつもりはない」と回答した人が70代では60.0%、80歳以上でも20.0%となっています。

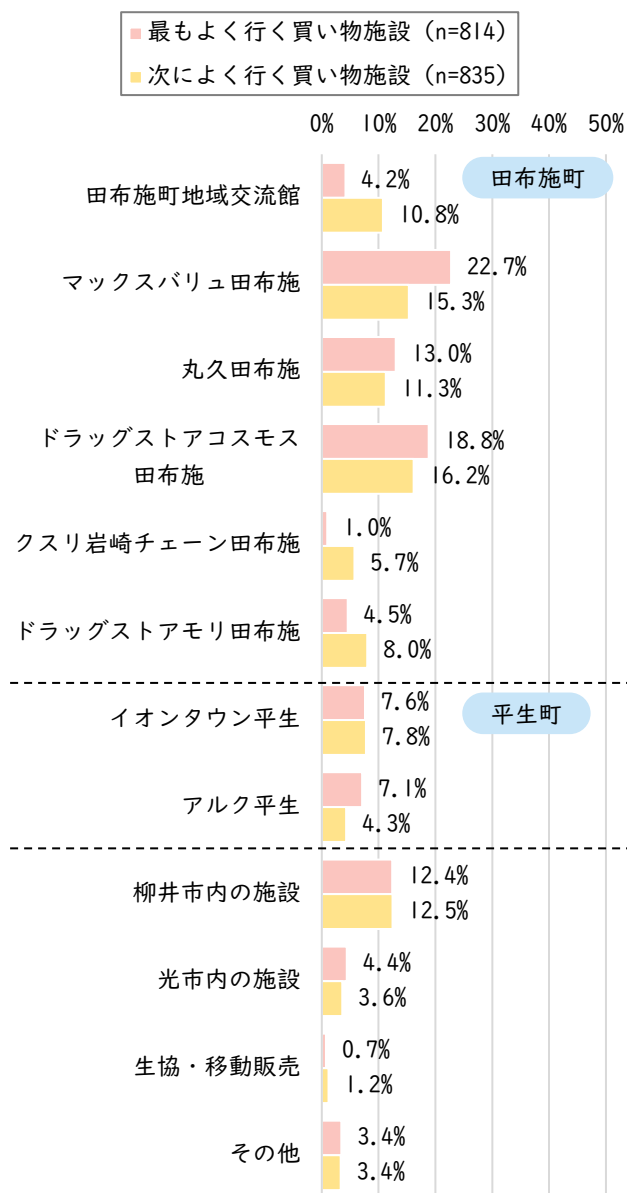


資料：町民アンケート結果

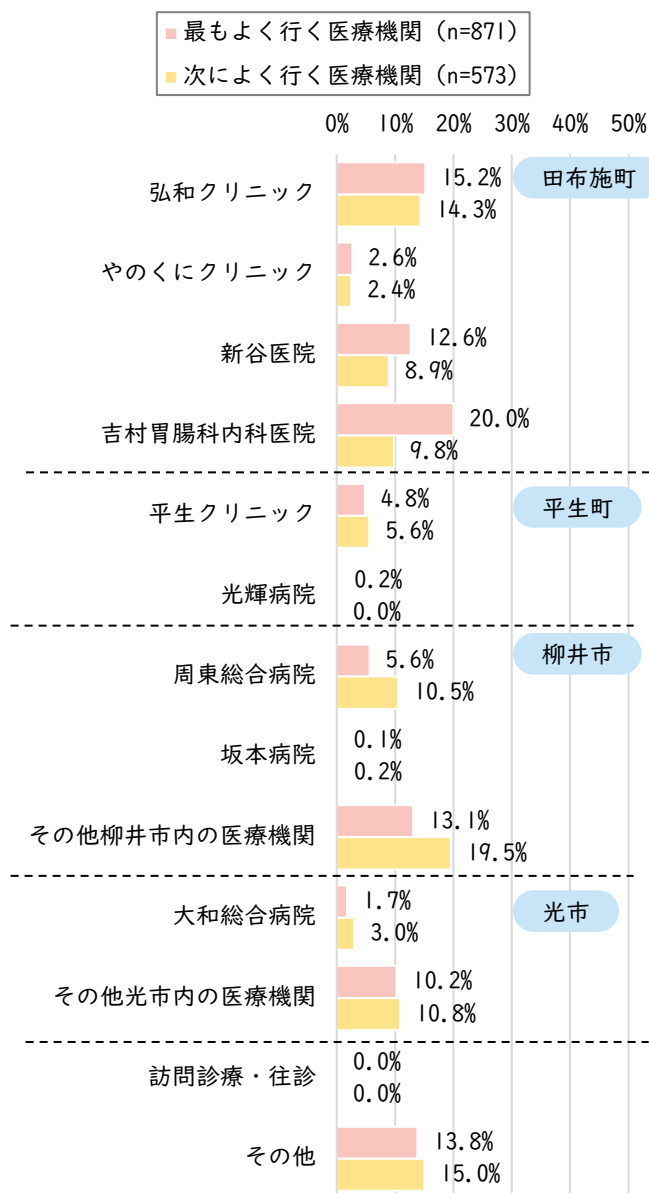
図表 免許返納意向

(3) よく行く医療機関・商業施設

- 町民のよく行く医療機関・商業施設は、JR田布施駅周辺の町中心部が多くなっています。田布施町周辺の平生町、柳井市、光市への移動も多く見られます。



図表 買い物施設



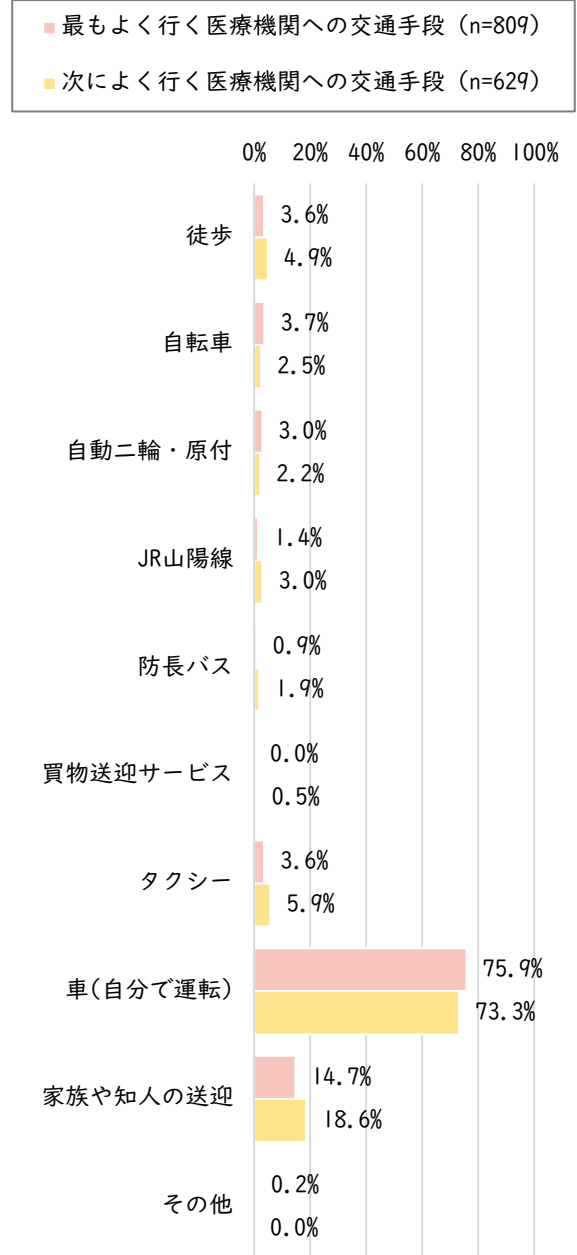
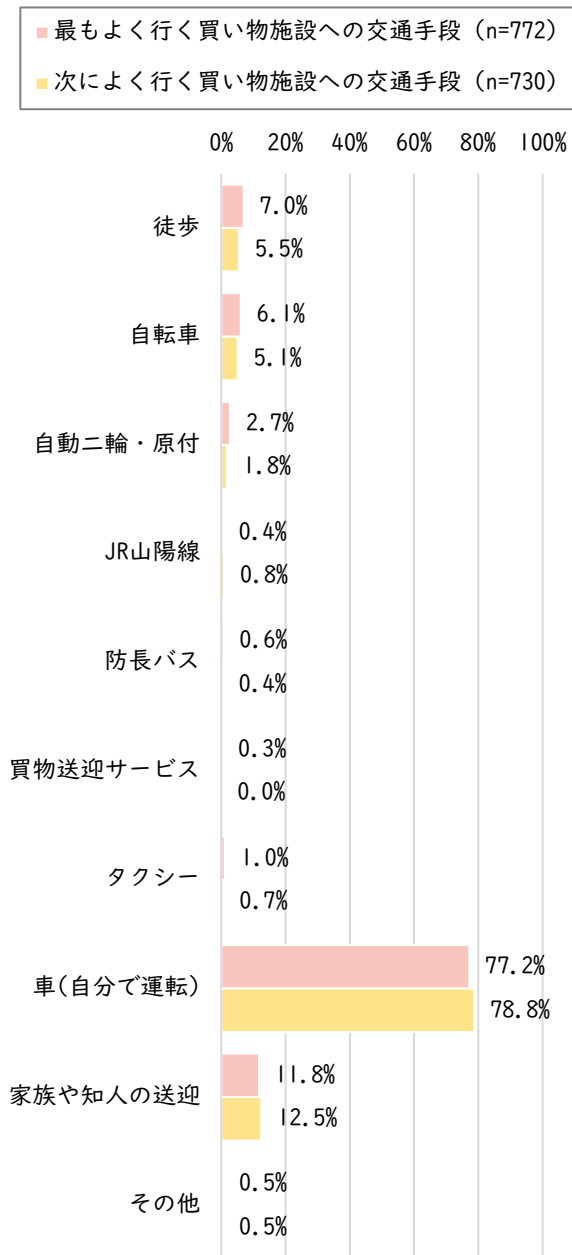
図表 通院している医療機関

※1つの選択肢で複数施設を回答した場合を除外したため、「最もよく行く買い物施設」の回答数より「次によく行く施設」の回答数が多くなっている。

資料：町民アンケート結果

(4) 利用する交通機関

- 通院や買物での移動手段は車での移動（自分で運転または送迎）が8割弱を占めており、公共交通利用はほとんどされていません。



図表 買い物先への交通手段（複数回答可）

図表 通院先への交通手段（複数回答可）

資料：町民アンケート結果

2. 高校生アンケート

(1) 調査概要

調査対象	● 田布施町内の高校（田布施農工高校）に通う2年生の生徒及びその保護者 ● 田布施町在住で町外の高校（熊毛南高校・光高校・柳井高校）に通う生徒及びその保護者
調査期間	令和5年7月～8月
配布・回収方法	学校を通じて直接配布、直接回収
回収結果	回収率：44.0% （回収176部／配布400部） ※うち、田布施農工高校 【生徒】 回収74部／配布160部 【保護者】 回収56部／配布160部 熊毛南高校 【生徒】 回収16部／配布20部 【保護者】 回収16部／配布20部 光高校 【生徒】 回収4部／配布10部 【保護者】 回収4部／配布10部 柳井高校 【生徒】 回収3部／配布10部 【保護者】 回収3部／配布10部

(2) 通学手段

- 熊毛南高校では自転車の利用割合が高くなっています。
- 光高校ではJR山陽線とそれ以外の交通機関を利用する割合が高く、保護者の送迎の割合も高くなっています。
- 田布施農工高校では自転車とJR山陽線を利用する割合が50%以上います。

	田布施農工高校 (n=74)	熊毛南高校 (n=16)	光高校 (n=4)	柳井高校 (n=3)
徒歩のみ	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
自転車	55.4%	93.8%	50.0%	33.3%
原付	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
保護者による送迎	29.7%	31.3%	75.0%	33.3%
防長バス	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
JR山陽線	62.2%	0.0%	75.0%	66.7%
その他	2.7%	0.0%	75.0%	0.0%

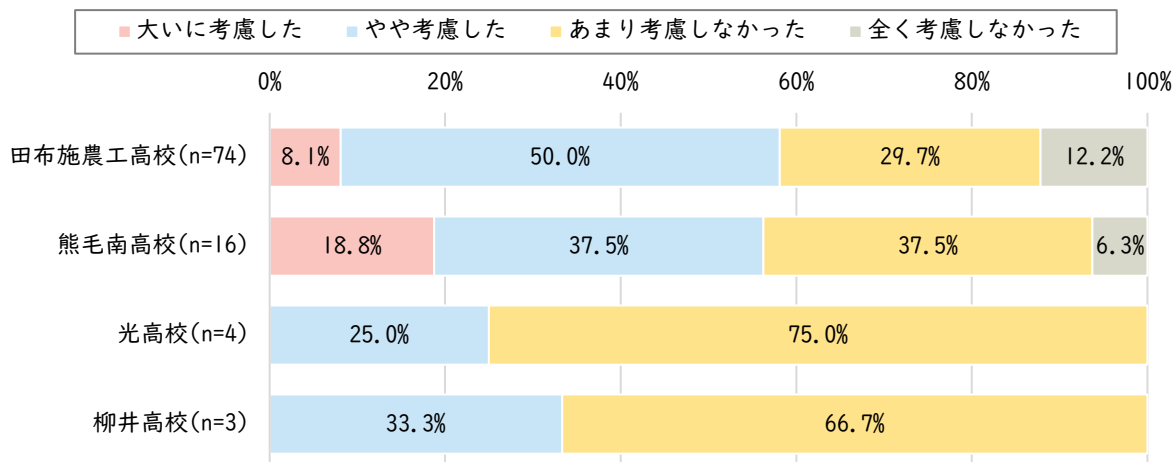
その他：JRバス、光ぐるりんバス、JR岩徳線、錦川清流線

資料：高校生アンケート結果

図表 登校時の通学手段

(3) 志望校選定の際における公共交通の考慮

- 田布施農工高校、熊毛南高校は半数以上が志望校選定の際に考慮したとされる一方で、光高校、柳井高校はそうした傾向はあまりみられませんでした。

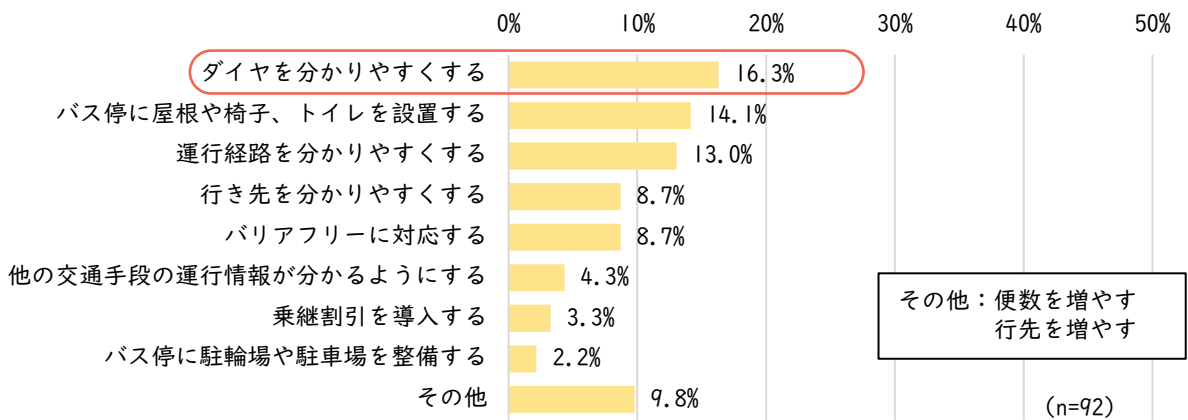


資料：高校生アンケート結果

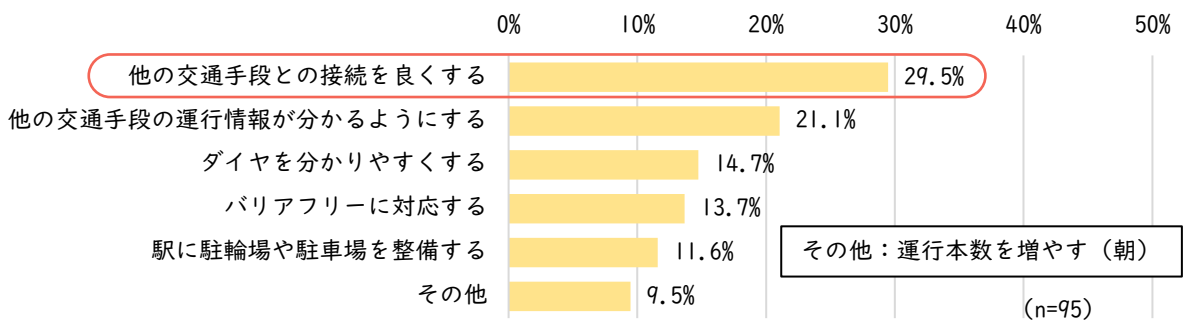
図表 志望校を選定する際の公共交通の考慮

(4) 重要だと思う公共交通の改善点

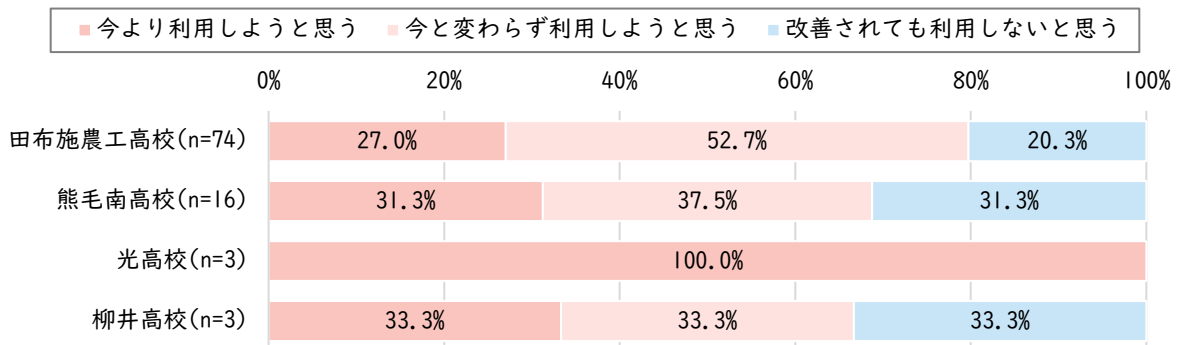
- 防長バスやJR山陽線において「他の交通手段との接続をよくする」ことが改善点のトップに挙げられています。
- どの学校においても、改善後の利用意向がみられます。



図表 重要だと思う防長バスの改善点



図表 重要だと思うJR山陽線の改善点

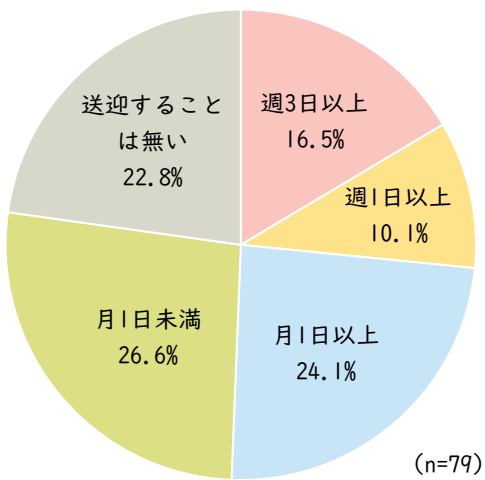


図表 改善後の利用意向（防長バス・JR山陽線）

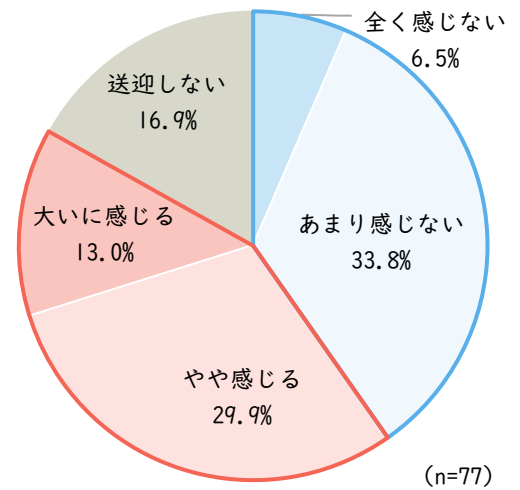
資料：高校生アンケート結果

(5) 保護者による送迎の頻度と負担感

- 登校時に送迎することがある人が60%以上となっています。
- 登校時の送迎について30%以上の保護者が負担に感じています。



図表 登校時の送迎の頻度



図表 登校時の送迎の負担感

資料：高校生アンケート結果

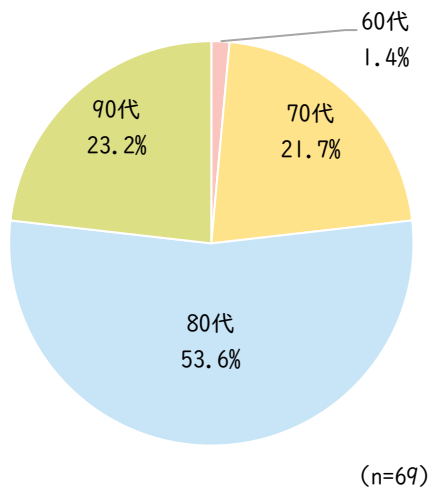
3. 買い物送迎サービス利用者アンケート

(1) 調査概要

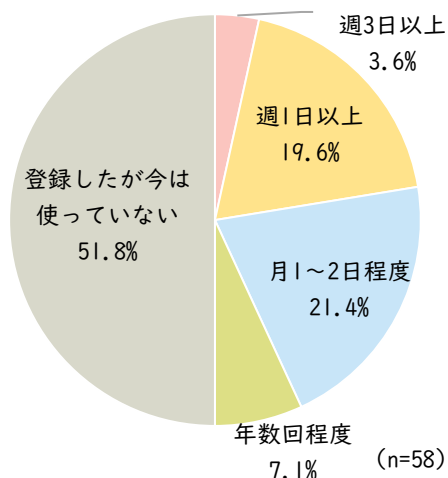
調査対象	買い物送迎サービス登録者
調査期間	令和5年8月
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収、web回答
回収結果	回収率： 45.0% （回収 72部/配布 160部） ※うち、web回答2件

(2) 利用者の状況

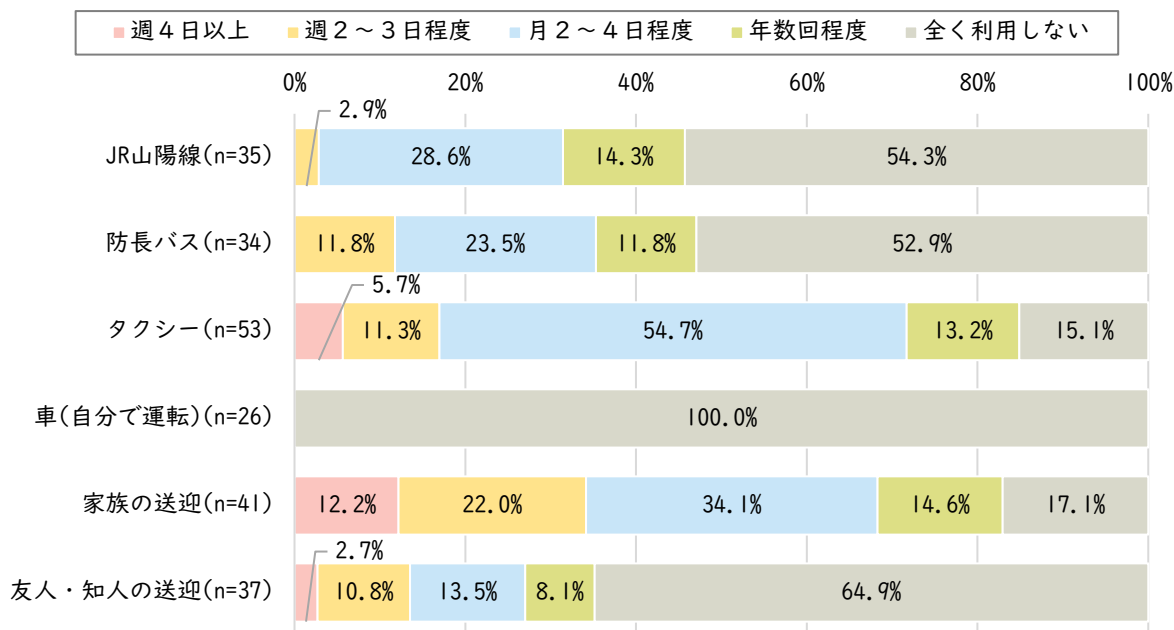
- 利用者の年代として80代が最も多くなっています。
- 「登録したが今は使っていない」と回答した人が半数を超えています。
- 買い物送迎サービス以外の交通手段として、「タクシー」や「家族の送迎」を挙げる人の割合が多くなっています。



図表 年代



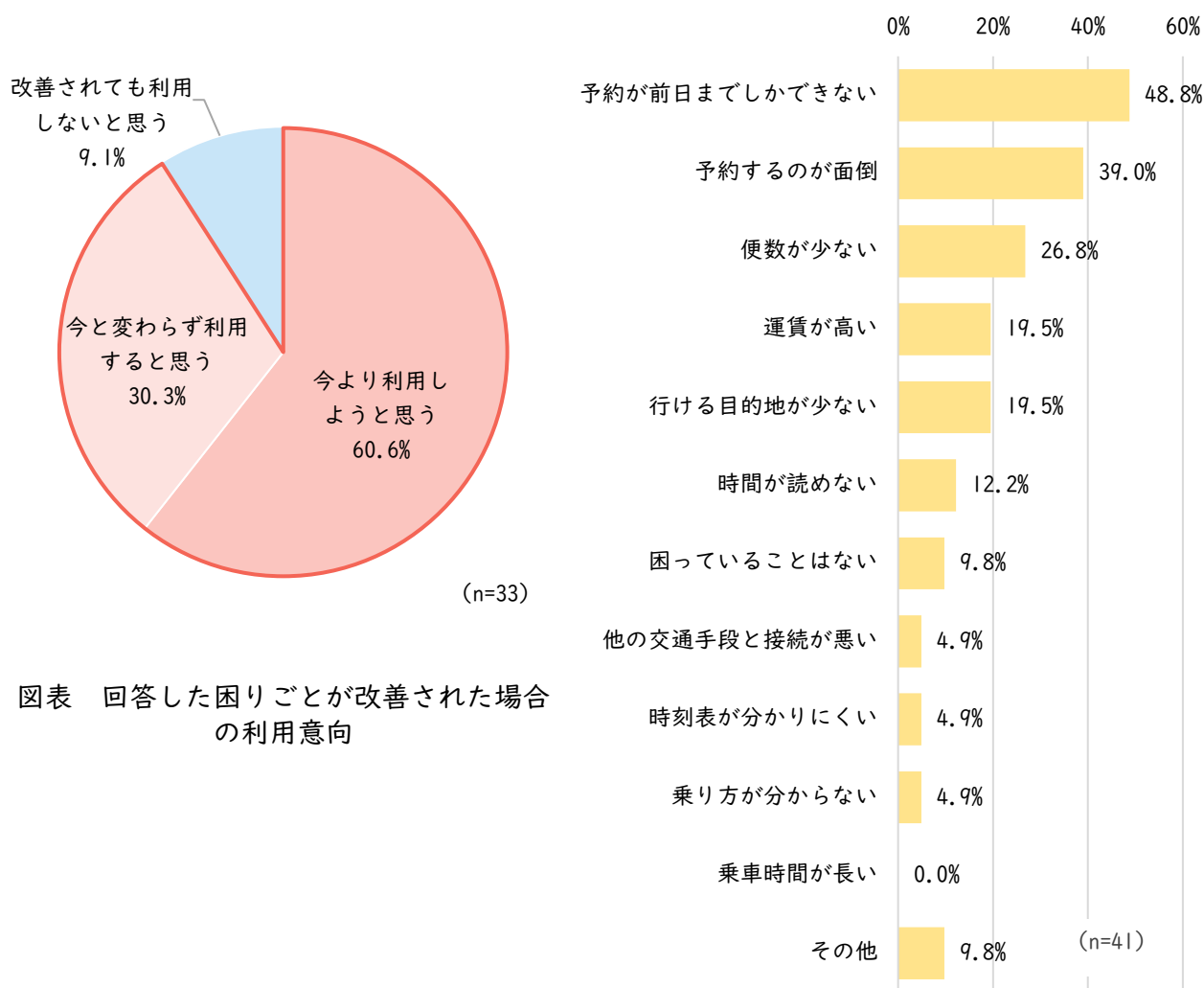
図表 利用頻度



図表 他の交通手段の利用状況（複数回答可）

(3) 買い物送迎サービスの困りごと

- 困りごととして「予約が前日までしかできない」「予約するのが面倒」と回答した人が多くっており、予約に対する不安や苦手意識等があると思われます。
- 「困りごとが改善された場合、利用しようと思いますか。」という質問に対して「改善されても利用しないと思う」と回答した人は9.1%にとどまっており、ほとんどの登録者が改善後も引き続き利用したいと考えています。



【その他詳細】

- ・通院にも遠くて不便です。
- ・2km位で¥300位にして欲しい。
- ・帰りの便の時間を増やして欲しいです。
- ・病院に行くと帰れないです。

図表 困りごと（複数回答可）

4. 交通事業者ヒアリング

(1) 調査概要

調査対象	鉄道事業者（1社） バス事業者（1社） タクシー事業者（2社） 航路事業者（1社） 田布施町社会福祉協議会
調査期間	令和5年8月
ヒアリング方法	対面で実施

(2) 担い手確保について

鉄道	・ 運転士に限らず、現状は大丈夫だが、今後については厳しくなると思う。 ・ 駅の無人化もやむなしと考えており、機械対応を進めている。 ・ 保線作業員は勤務的に過酷な仕事で、今までは夜間に作業していたが、昼間に作業をすることで労働力を確保している。保線作業中は代行輸送などで対応し、代行輸送はバス1台で対応できている状況である。
路線バス	・ 平生営業所管内では5割が60歳超となり、高齢化が進んでいる。 ・ いまは年休を取得しない状態でちょうど仕業数＝運転士数という状態。誰かが年休を取ると他の誰かが残業or公休出勤をする状況。 ・ 今はなんとかなっているが、5年先、10年先はどうなるか分からない。 ・ 2024年問題もあり、労働時間をさらに減らさないといけない。会社全体で考えないといけない問題である。人手不足であるのに、今より勤務時間が短くなるため、全体的に減便して対応せざるを得ない。
タクシー	・ 高齢化が進み、運転士は不足している。 ・ 運転士の年齢層は、60歳以上が中心となる。 ・ 今までは、職安からの紹介で採用できていたが、今後は厳しくなり、5～10年後はわからない。若い人は収入的に難しい。 ・ 未経験で入社した方もいるが、ほとんど周辺エリア（光市・周南市・柳井市）で運転士の経験がある方が多い。 ・ 未経験で、国土交通省からの補助金と自社の負担金で免許取得を支援し、運転士になっている方もいる。
航路	・ 平均年齢50歳代で5人いる。 ・ 正職員の船長1人、残り4人は会計年度任用職員。 ・ 船員が不足していた時期もあったが、数年は継続して勤務されており安定している。

5. 意見交換会で寄せられた意見

(1) 調査概要

調査対象	各地区（西田布施地区、麻郷地区、東田布施地区、麻里府地区、城南地区）の代表者数名
調査期間	令和5年11月に地区ごとに実施
実施方法	各地区の公民館で公共交通の問題点・課題について、代表者同士が自由に意見を交換



(2) 意見の結果概要(抜粋)

JR田布施駅の改修	・ 古くて暗い ・ 階段が斜めで、上り下りが怖い ・ トイレが汚い ・ 待合い場所がない ・ 環境を改善してほしい ・ エレベーターがなくて不便
JR田布施駅周辺駐車場の整備	・ 駐車場が少ないので役場に停めている
買い物送迎サービスの充実	・ 買物に限らずどんな目的（通院等）でも乗れるようにしてほしい ・ 希望した時間に利用したい ・ 1日2便は寂しい ・ 前日までの予約方法を改善してほしい
情報提供	・ 年配の方は便利な情報を知らない（知る方法が少ない） ・ 情報提供の方法を考えてほしい ・ 広報を読んでいないと、便利なサービス等知らない情報が多い ・ 買い物送迎サービスが認知されてないので、利用していない人もいる
その他	・ 町内の交通に「ぐるりんバス」のようなバスがあるといい ・ 地域交流館をもっと知ってもらえば、田布施町に来てもらえる ・ タクシーがつかまらない ・ 免許がないとタクシー移動になってしまうため、免許返納したくない

第6章 田布施町の公共交通に関する問題点

本町の公共交通を取り巻く問題点を整理すると、以下の8つに分類されます。

① 地域内交通が不十分

町の現在と将来の状況を見据えた公共交通や移動サービスが不十分で、利用するための仕組みや設備が不足しています。

▶人口減少、高齢化 →P4,P5

人口減少と高齢化が進む中、運転免許証返納後の生活を支える移動環境構築が必要です。

▶中心部の拠点機能強化 →P6,P29

医療・商業施設などはJR田布施駅周辺の中心部にあり、町民の移動の目的地となっています。

▶将来の高校再編への対応 →P7

町内から徒歩圏内に存する高校は2校あり、多くの生徒は周辺自治体の高校に通学しています。将来は高校再編が検討されており、それに対応した通学環境構築が必要です。

▶町内の公共交通が限定的 →P18

幹線交通となるJR山陽線及び防長バスが町の一部を通過しているだけであり、町内を網羅する公共交通は運行されていません。

② 移動ニーズへの対応が不十分

各主体（高校生、高齢者など）の移動ニーズは隣接自治体への需要が多くなっているのに対して、公共交通や移動サービスが十分に対応できていません。

▶通勤・通学需要に対応する幹線交通 →P8

通勤・通学は隣接自治体への需要が多くなっています。また、鉄道・路線バスともに主たる利用は高校生の通学ですが、各高校ともに保護者の送迎が多く、保護者は負担を感じています。志望校の選定時に、通学時の公共交通を考慮する生徒も一定数存在しています。

▶高齢者対応型交通施策 →P22,P26

一般乗用タクシーの主たる利用者は、町内の高齢者となっています。ただし、高齢者を対象とした買い物送迎サービスがクルマを自由に使えない高齢者の主たる移動手段であり、登録者・利用者ともに増加しています。これに加えて、高齢者福祉タクシー利用料助成サービスもあり、利用者は増加しています。

③ 公共交通の収支率の悪化

公共交通利用者が減少する中、増大する行政負担額とのバランスをどうするかが問題です。

▶公共交通の利用者数 →P20,P21,P24,P25

JR田布施駅の利用者、路線バスの利用者は減少傾向であり、コロナ禍の影響で廃止路線も出ています。

▶公共交通に係る行政負担 →P21

路線バスの赤字額が増加しており、行政負担額も年々増加しています。

④ 買い物送迎サービスの見直しの必要性

高齢者は将来の移動手段に不安を感じています。買い物送迎サービスの登録者は7割以上が80歳代以上となっており、高齢者の移動を支える役割となっています。

▶高齢者の暮らしを支える施策 →P36

登録者は80歳代以上が7割を占めており、週に2日程度から月に1・2回程度と利用頻度は多くありません。

▶非効率な運行体制 →P22

現在買い物送迎サービスはアナログによる予約受付、運行経路決定を行っているため、作業に手間がかかっています。

⑤ 各交通事業者間の連携が不十分

高校生からJR・路線バスのサービス改善として「他の交通手段との接続をよくする」という回答が多くあります。

▶公共交通のサービス改善 →P33

公共交通の困りごととして、主たる利用者である高校生からは、「他の交通手段との接続をよくする」が最も多く、「ダイヤをわかりやすく」、「運行経路をわかりやすく」、「バス停に屋根や椅子・トイレの設置」という回答が多くありました。

▶買い物送迎サービスの改善 →P37

困りごとの回答として「前日予約」、「予約が面倒」が多く、次いで「目的地の追加」「運賃」が多くありました。サービス改善後の利用意向は利用増の意向が示されています。

▶交通機関の連携 →P33

高校生からは「他の交通手段との接続をよくする」がJR、路線バスのサービス改善としてあげられています。買い物送迎サービスと鉄道や航路、路線バスとの接続は考慮されていません。

⑥ 公共交通の担い手（運転手）確保の困難さと事業存続の危機的状況

交通事業者における人手不足は深刻な状況です。持続可能な交通環境に向けての対策を検討する必要があります。

▶公共交通の担い手確保 →P38

JR、路線バス、タクシーともに運転士不足が大きな問題であり、持続可能な交通環境に向けての対策は不可欠です。鉄道では保線作業員の確保も課題となっています。

▶事業性の向上 →P21

路線バスの赤字欠損額が増加しており、利用者増による売上増加を目指す必要があります。タクシーの事業性も厳しい状況にあり、航路の赤字も安定しているものの大きい状況です。買い物送迎サービスの運行サービスの改善によって、タクシー事業者の売上減少が危惧されます。

⑦ 交通結節点の待合環境の不備と不便さ

JR田布施駅は駅舎が古く、バリアフリー化がなされておらず、駅に駐車場が少ない点も不便と感じています。トイレや待合環境の整備などには改善の余地があります。

▶JR田布施駅の改善 →P19

JR田布施駅はバリアフリー化がなされておらず、駅舎も古いためトイレなどの待合環境の改善が必要です。

⑧ 生活拠点施設と公共交通の連携が不足

医療施設や商業施設などの生活拠点が集まる中心エリアへ出かけることが、不便な地域があります。

▶交通まちづくりの必要性 →P6,29

中心部にある商業・医療等の拠点施設は公共交通の主な目的地であり、施設と交通の連携が必要です。

第7章 取り組むべき課題

課題① 公共交通の位置付けの明確化

問題点 ②⑤

田布施町内の公共交通は、広域移動や周辺自治体との移動に対応したJR山陽線、防長交通による路線バス3路線（6系統）が幹線交通として運行しています。また、町内の移動に関しては一般乗用タクシーが担うとともに、高齢者限定の買い物送迎サービスや高齢者福祉タクシー利用料助成サービスが提供されています。

高齢者以外の一般の町民や来街者が自由に使える町内を網羅する公共交通が運行されていないため、今後の町内の移動環境づくりに対して、各交通の位置付けを明確にする必要があります。

課題② 幹線交通の利便性向上

問題点 ②③⑤⑥

幹線交通を担うJR山陽線や防長交通による路線バスは、町民の広域移動や周辺自治体への移動に利用されており、とりわけ高校生の通学需要が多くなっています。高校生からは「JRと路線バスの接続性向上」、「適切な情報提供（乗継、ダイヤ、経路）」、「待合環境の向上」などが指摘されており、利便性向上に向けた改善が必要です。

また、路線バスと買い物送迎サービスとの接続性が不十分であり、路線バス事業者からも接続性向上が提案されています。両方の利用者増加に向けて検討することが望ましく、サービス改善のすりあわせが必要です。

さらに、効率的な利便性向上に向けて、公共交通サービスにおけるDXの活用（サイネージ等）を進める必要があります。

課題③ 買い物送迎サービスの改善

問題点 ①④⑤⑥

クルマを自由に使えない高齢者のための買い物送迎サービスは、町内における生活活動のための移動手段として重要なものとなっています。利用者が増加する中、今後は各種サービスのDX化、料金や目的地などの基本サービスの改善が必要となります。

また、タクシー事業を支援するためにタクシー事業者の売上・利益増加に資する事業を検討する必要があります。

課題④ 航路の維持・活性化

問題点 ⑥

馬島の住民の生活を守るとともに、観光客の増加のために航路の運行サービスの継続は不可欠であり、持続可能性な運航に向けた観光客に対する利用促進策の実施、他の交通機関との連携施策などを検討する必要があります。

また、将来の新造船の検討も推進する必要があります。

課題⑤

公共交通の利用促進

問題点 ③⑤

公共交通の赤字減少のための増収施策としての利用促進が不可欠となります。利用促進に当たっては、適切な情報提供、心理的な行動変容施策、DXツールを活用した施策などが進められており、田布施町の交通環境に即した施策展開が必要です。

課題⑥

持続可能な公共交通事業の推進

問題点 ⑥

JR、防長交通、タクシー事業者ともに運転士不足が大きな問題となっています。公共交通事業者を存続させるためには、魅力ある職業としての運転士の仕事を再構築する必要があり、行政や民間企業支援団体などの関係主体が一体となった取組の推進が必要です。

また、公共交通事業の事業性向上のためには、収入増加に向けた利用促進策が不可欠となります。

課題⑦

JR田布施駅の環境改善

問題点 ⑤⑦

JR田布施駅は田布施町の公共交通の玄関口となる重要な交通結節点です。しかし、現状の駅舎は築年数が長く、バリアフリー化もなされていないため、快適な待合環境を有していない状況です。駅舎やその周辺に対して、よりよい待合環境として必要な機能や改善点を検討する必要があります。

課題⑧

各種主体との連携と共創による交通まちづくり

問題点 ①⑧

JR田布施駅周辺の中心部エリアには、医療施設や商業施設をはじめとする生活拠点が集積しており、町民の移動目的地となっています。今後の持続可能な公共交通の構築、商業の活性化、医療施設の利便性向上等に向けて、交通と商業や医療施設との連携と共創によるサービス改善施策が効果的です。

共創の取組により、地域全体の暮らしやすさや魅力の向上に寄与することが可能となります。